

## Inspire Together: 国際交流・共修活動に主体的に関わる学生のための オンライン・エンパワーメントプログラム

国際教育交流センターアドバイジング部門

高木ひとみ

新型コロナの影響により、キャンパスにおける国際交流・共修活動のオンライン化を進めたが、その手法については、教職員も学生たちも手探りであった。本事業では、学生を対象とし、オンラインによる新しい国際交流や共修活動について検討し、コロナ禍においても互いにエンパワーメントしあい、継続的に国際交流活動を実施していけるよう研修を実施した。

### 1) 2020年9月14日「Inspire Together: 国際交流・異文化体験から何を学ぶのか」(講師:メーカー亜希子氏)

国際交流・共修活動に関心のある学生を対象にセミナーを開催し、文化の定義や異文化感受性発達理論について学び、学んだ理論を国際交流や共修活動にどのように応用していくか検討した。海外渡航が難しいコロナ禍において、どのようにオンラインにおける交流や文化体験の場づくりを行っていくか、グループでのディスカッション等を実施した。参加学生からは、国際交流について理論的に学べたことによって理解が深まったことや、国内においてできる文化交流など、今後活動を進めていく上でヒントが得られたというような声が聞かれた。(参加学生約50名)

### 2) 2020年12月5日「Inspire Together: 交流・共修活動に関わる学生のためのオンラインエンパワーメントプログラム」(名古屋大学・立命館大学・一橋大学)

Inspire Together セミナーの第一部は、「コロナ禍における私たちの Challenge & Creation」と題し、立命館大学、一橋大学、名古屋大学、三大学においてコロナ禍における学生主体の交流活動に関連するパネルディスカッションを行った。互いに取り組んだ事例について紹介しながら、学びあう機会となった。第一部は、名古屋大学留学生会(NUFSA)、プレゼンテーションアワーの学生チームが、実行委員となり企画を進めた。第二部では、コロナ禍においても、学生たちが未来志向で夢や目標など、将来計画が立てられるようワークショップを実施した。三大学の学生たちが交流しながら互いに将来計画について語り合える機会を提供した。講師は、立命館アジア太平洋大学平井達也氏が担当した。(参加学生約25名)

二つのプログラムを通して、学生たちは、コロナ禍においても継続して国際交流や共修活動に関わることの重要性を確認することができ、さらに他大学との情報交換を通して、オンラインを用いた方法や活動を進めていく上で配慮や工夫が必要となる点について学ぶ機会となった。これらのセミナーの成果は、本年度だけではなく、新型コロナと共に新しい交流や共修活動の実践が必要となる、次年度以降にも発展的に展開されていくことが期待できる。